

# 夕張市、破綻から10年

北海道夕張市が財政再建団体入りを発表してから20日で10年。その後の法改正で、財政に不安のある自治体は事前に健全化が求められるようになり、現在、国の管理下にある財政再生団体は夕張市だけだ。当初353億円の赤字があった夕張市は現在でも250億円を越す負債が残り、少なくともあと10年は緊縮財政を迫られる。再建に苦しむ街はどんな状況なのか。現場を歩いてみた。

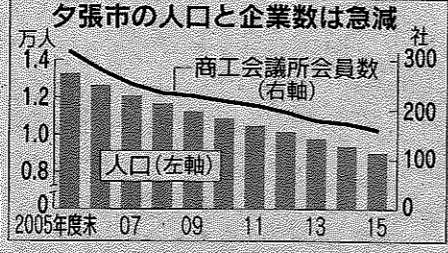
夕張市役所の向かいに築40年を超える古びた小さな建物があり、その中に夕張商工会議所がある。この市内商工業の中核は今、非常事態の渦中にある。

## 長引く会頭不在

4月1日朝、小網敏男・商議所専務理事の電話が鳴った。「自己破産する。会頭を辞職させてください」。12年にわたり商議所トップを務めた当時の会頭、沢田宏一氏からだった。沢田氏が会長の建設会社、井出組は前日に事業を停止。その後、自己破産を申請した。

トップ企業の突然の破産に混乱した夕張商議所。6月16日の総会で新会頭を選任する予定だったが、有力候補が辞退し、2カ月余り過ぎて後任は決まっていない。

前代未聞の会頭不在は夕張市の商工業衰退の象徴だ。財政破綻前の2006年3月末に316だった商議所会員は、16年



# 街に廃虚、子育て世代半減

## 生活環境劣化、流出に拍車

3月末には159に半減。年4%を超える人口減少に直面し、小売りやサービス関連事業者の減少に歯止めがかからない。

街の将来にとって、さらには深刻なのが子育て世代の流出だ。20～39歳人口はこの10年でほぼ半減している。

市内には大手企業の拠所がほとんどない。水道料金も全国有数の高

点もあり、働く場がないわけではない。従業員250人を越える市内最大級の事業所、シチズンタワーズがあるが、夕張にはシチズン以外のテナントもあるが、生活環境の貧弱さから、若い世代は住むことを拒んでいる。

夕張市役所の近く、かつての観光施設周辺は休日でも人の気配がない。廃虚となり取り壊しのメドも立たない巨大な施設が所在なげに朽ちている。中でも蒸気機関車を展示したS.L館の廃虚は訪れる人々に強烈な印象を与えている。



## 財政再建、地域再生ありき

北海道夕張市の破綻は従来型の箱物行政の限界を全国の自治体に突き付けた。公共事業に依存する土建国家ニッポンの転換を促すきっかけにもなったといえるだろう。

炭鉱の閉山で苦境に陥った夕張市は行政主導で観光開発を進め、テーマパークや博物館、ホテル

たのは09年。最初に始めたのは同居老人を対象とした弁当配達サービスだった。1食500円で販売を始める。予想外に人気があがり、企業や市役所などの注文も届くようになった。弁当を配達する企業が撤退したためだった。

「さらすは企業が不採算を理由に撤退した施設の管理委託を引き受けている。JR夕張駅近くの観光案内センターや石炭博物館も、さらすが管

点を迎えた段階だ。夕張市は人口減を抑えたい。ふるさと納税の使いたい道まで国が口を挟む。財政が再建しても地域が再生しなければ意味がない。財政状況の改善に併せて国の関与を減らす。市民の声を予算編成に反映しやすい仕組みに改めるべきだろう。

(編集委員 谷隆徳)

宇野沢晋一郎